2021年3月期 第1四半期
決算概要

2020年8月6日

テルモ株式会社
Chief Accounting and Financial Officer
武藤 直樹

CAFOの武藤でございます。2021年３月期 第１四半期決算の概要について説明いたします。

心臓血管が新型コロナの影響を受けるも、他カンパニーで緩和

（億円）

	19年度Q1	20年度Q1	増減率	為替除く増減率
売上収益	1,525	1,313	-14%	-11%
売上総利益	852 (55.8%)	689 (52.5%)	-19%	-15%
一般管理費	445 (29.2%)	401 (30.5%)	-10%	-8%
研究開発費	118 (7.8%)	112 (8.5%)	-6%	-4%
その他収益費用	4	5	-	-
営業利益	292 (19.1%)	181 (13.8%)	-38%	-31%
調整後営業利益	339 (22.3%)	217 (16.5%)	-36%	-30%
税引前利益	288 (18.9%)	179 (13.6%)	-38%	
当期利益	228 (14.9%)	140 (10.7%)	-39%	

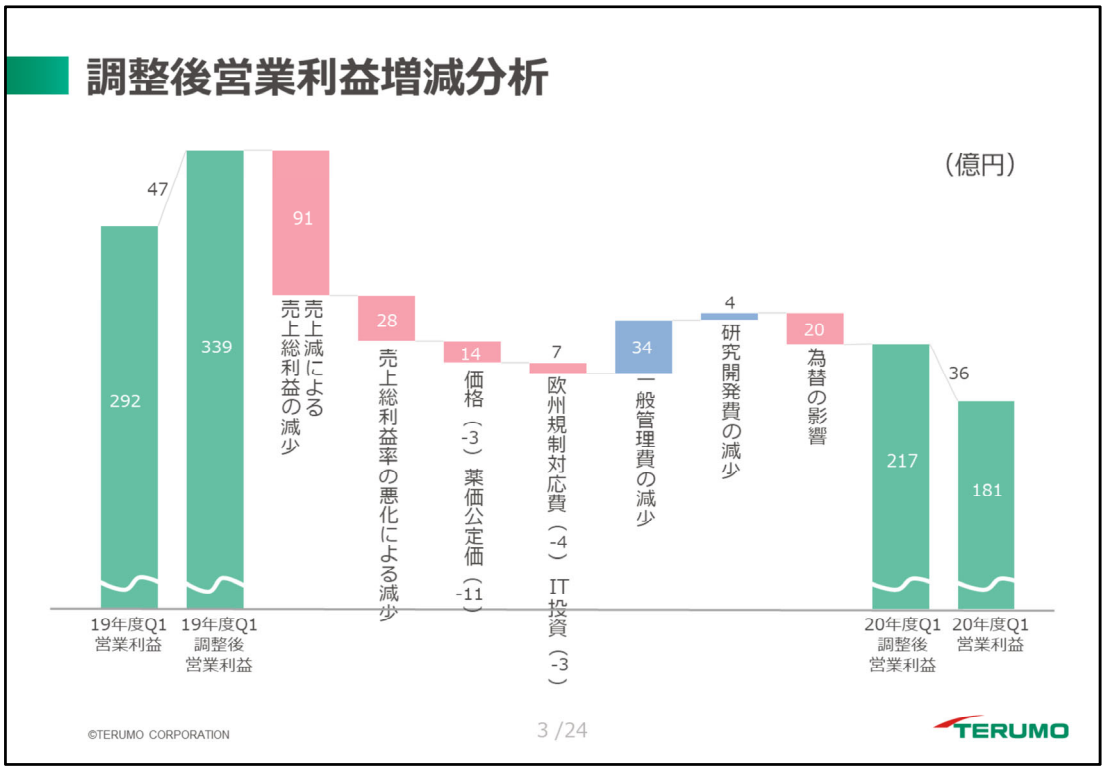
期中平均レート			
	USD	110円	108円
	EUR	123円	119円

- 売上収益：心臓血管は新型コロナの影響受けるも、ホスピタルと血液・細胞テクノロジーへの影響は軽微
- 調整後営業利益：売上減少による減益。研究開発費の抑制は限定的としながらも、一般管理費は抑制し前年度比で減少

©TERUMO CORPORATION

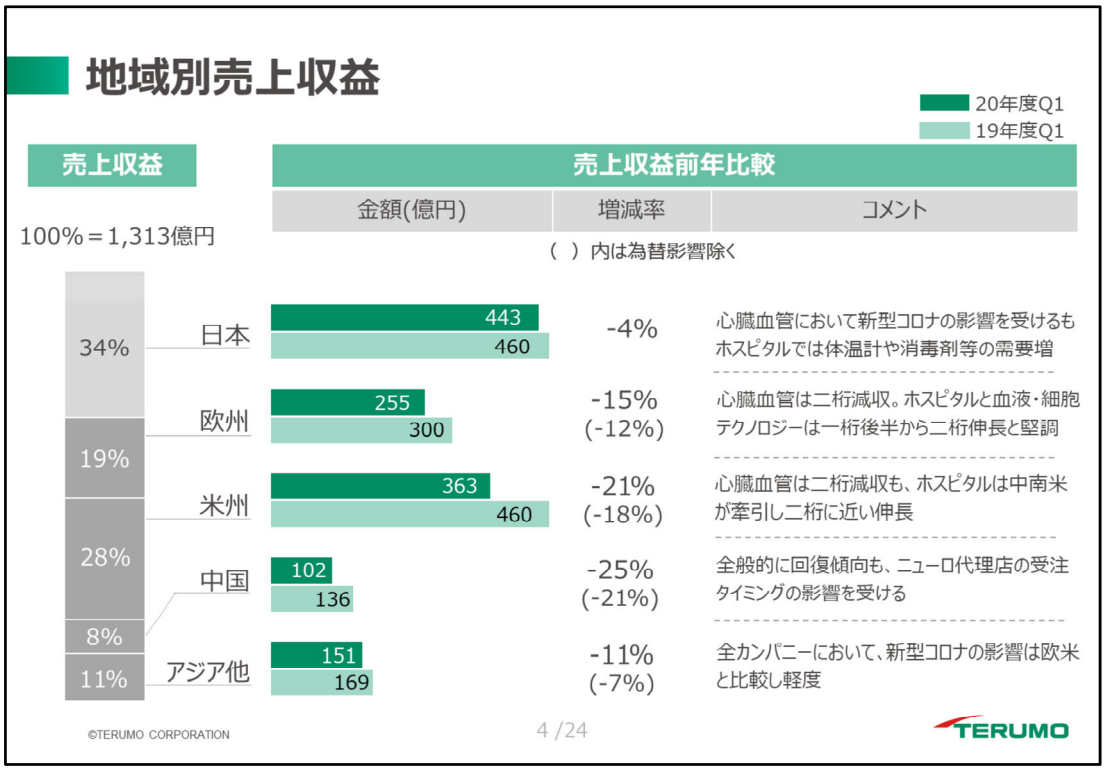
TERUMO

初めに全体総括です。
売上収益は、心臓血管カンパニーにおいて新型コロナの影響を受けましたが、ホスピタルや血液・細胞テクノロジーカンパニーへの影響は軽微にとどまり、総体で14%の減収、為替を除くベースでは11%の減収となりました。
調整後営業利益は、高収益な心臓血管カンパニーの減収の影響を大きく受けました。
費用面では、中長期の成長に資する研究開発費の抑制は限定的にしながらも、一般管理費はコロナ禍での活動制限による低下に加え、不要不急とみなす費用をコントロール、前年度比で減少させ、結果として、為替を除くベースで30%の減益、営業利益では31%の減益となりました。
当期利益においては、前年同期比で、39%の減益となりました。
タイトルにありますように、心臓血管カンパニーが新型コロナの影響を強く受けましたが、ホスピタルと血液・細胞テクノロジーカンパニーへの影響は比較的軽微にとどまり、結果として売上収益、利益ともに、新型コロナの影響を緩和した形となりました。

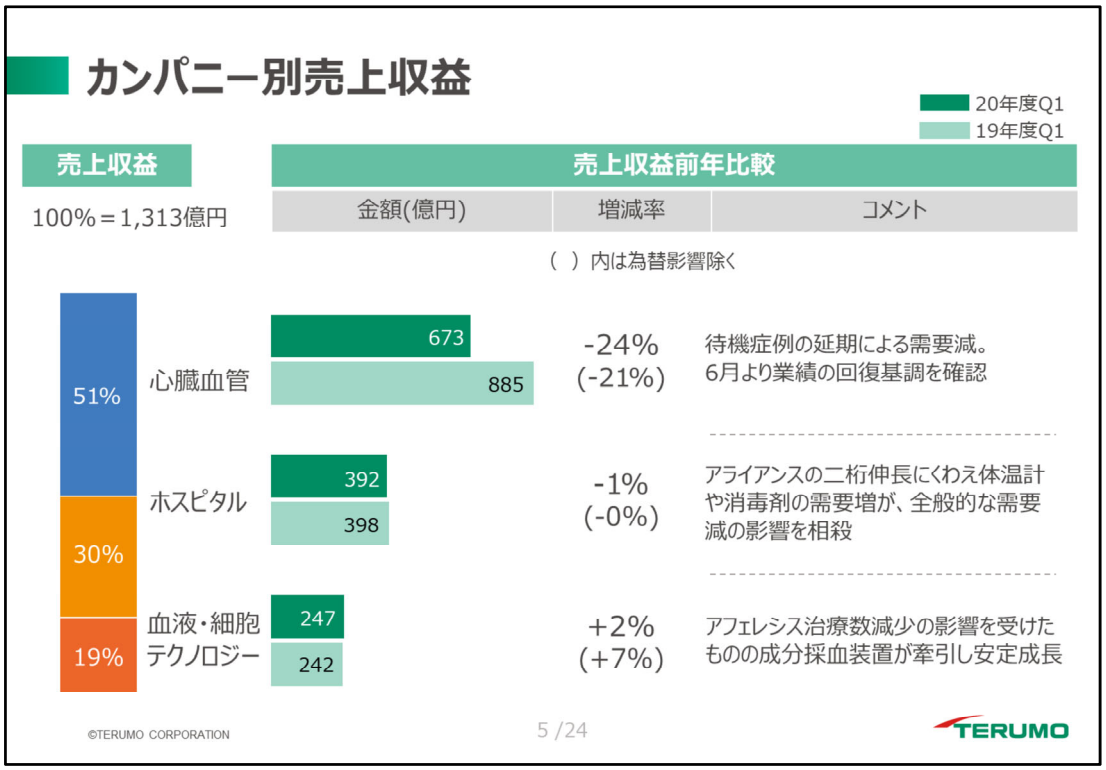


前年同期比での調整後営業利益の増減分析です。
「売上減による売上総利益の減少」は、主に心臓血管カンパニーにおける売上減少として91億円のマイナス要因となりました。
「売上総利益率の悪化による減少」は、心臓血管カンパニーの減収によるミックス悪化により、28億円のマイナス要因となりました。Q1においては、需要が減少する中でも、先行きの不透明さを考慮し、BCPの観点から生産稼働を敢えて下げずに、在庫の積み増しを行った結果、製造原価を若干押下げる効果があり、総利益率の悪化によるマイナスに対し一定の緩和効果がありました。
「価格下落」では、心臓血管カンパニーの売上減少により、下落の影響3億円と控えめのスタート、薬価公定価改定の影響は、昨年度上期において消費増税に伴う改定がなかったので、今期におけるQ毎の比較においては重めの、11億円となりました。
「欧州規制対応費」の4億円、IT投資の費用の3億円は、昨年度のペースから大きく変わらず、作業も順調に進捗しております。
「一般管理費の減少」は、コロナ禍において、病院へのアクセス制限や学会の中止・リモート化によって販促費や旅費が縮小されたことに加え、全社で不要不急な案件の選別を徹底し、費用を抑制したことで、前年度比34億円のプラス要因となりました。
一方、研究開発費は原則、投資を緩めずとしながらも、一部の不要不急な案件を抑制した結果、前年度比4億円のプラス要因となりました。
「為替の影響」は、ユーロ、中国元、中南米の通貨が円高に推移したことで、前年度

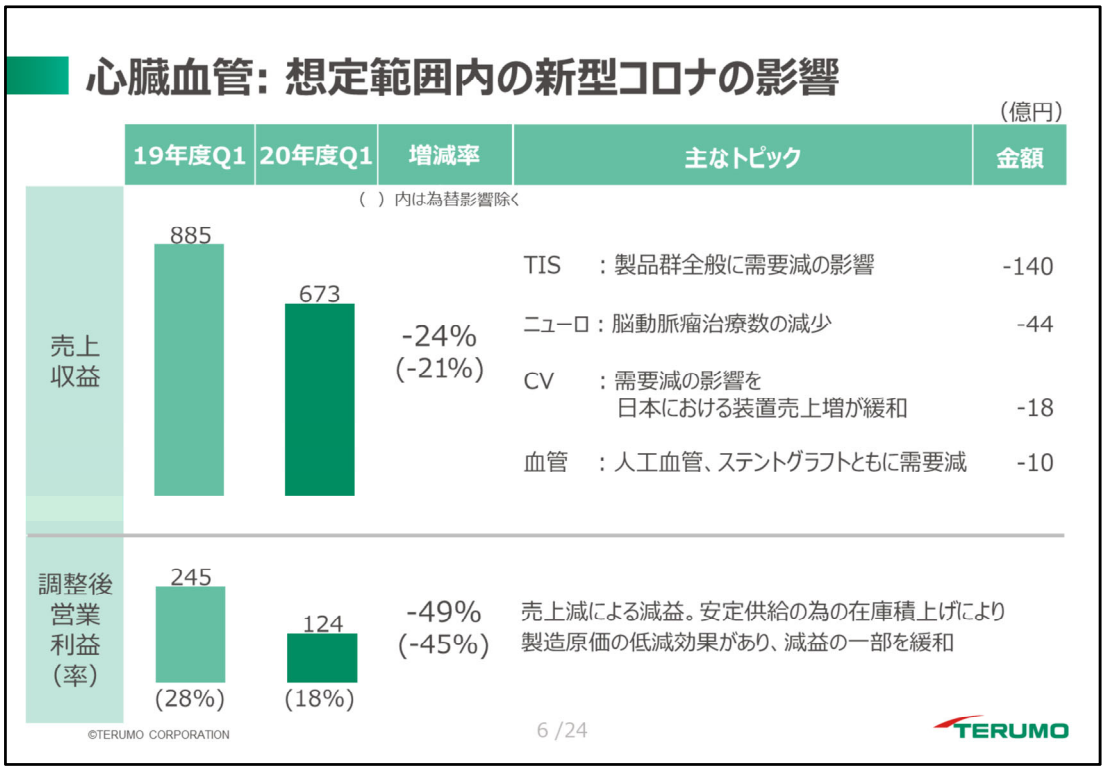
比で20億円のマイナス要因となりました。



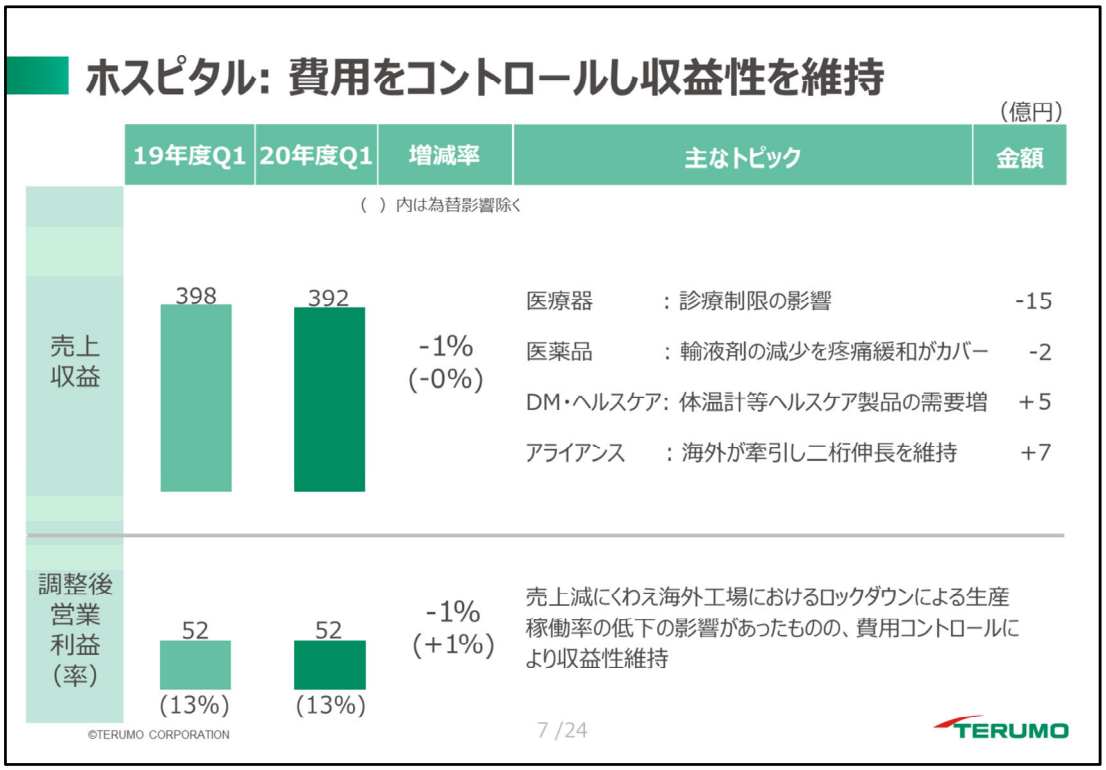
地域別売上収益です。
日本では、心臓血管カンパニーへの新型コロナの影響がありましたが、売上の割合が最大のホスピタルカンパニーにおける、新型コロナ関連の一部製品の需要増もあり、4%の減収にとどまりました。
海外においては、いずれの地域でも心臓血管カンパニーの減速により二桁減収となりました。
特に米国は、Q1における症例数の減少が顕著でした。
中国は、ニューロにおいて、代理店からの受注タイミングの影響で目減りしましたが、それを除くと地域としては大きな回復を示しました。



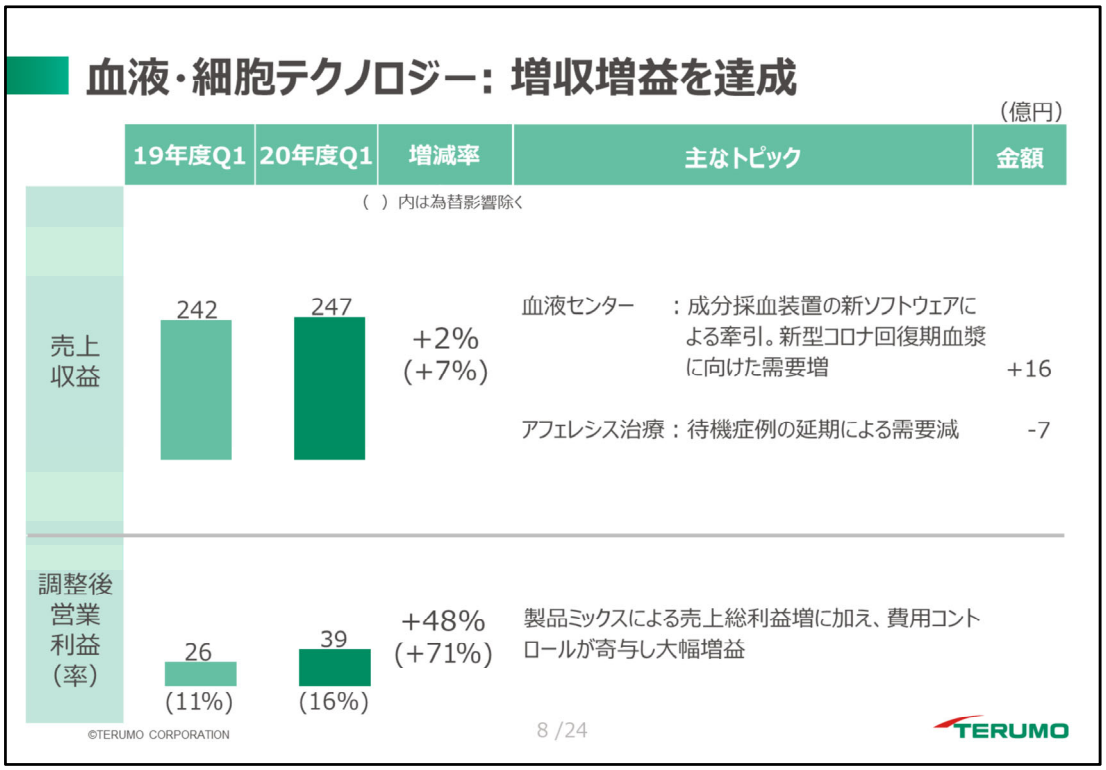
カンパニー別売上収益です。
心臓血管カンパニーは、インターベンション術、外科術ともに、待機症例の延期がみられ、需要減の影響を受けましたが、6月には症例数と共に、売上収益も回復基調が確認できました。
ホスピタルカンパニーは、一部製品では新型コロナの影響を受け減収がみられたものの、体温計や消毒剤などの需要増に加え、アライアンスが二桁伸長を継続し、全体としては安定的でした。
血液・細胞テクノロジーカンパニーは、アフェレシス治療の延期がありましたが、成分採血装置が牽引し全体として安定成長となりました。
次のスライドより、カンパニー別に詳しくお話いたします。



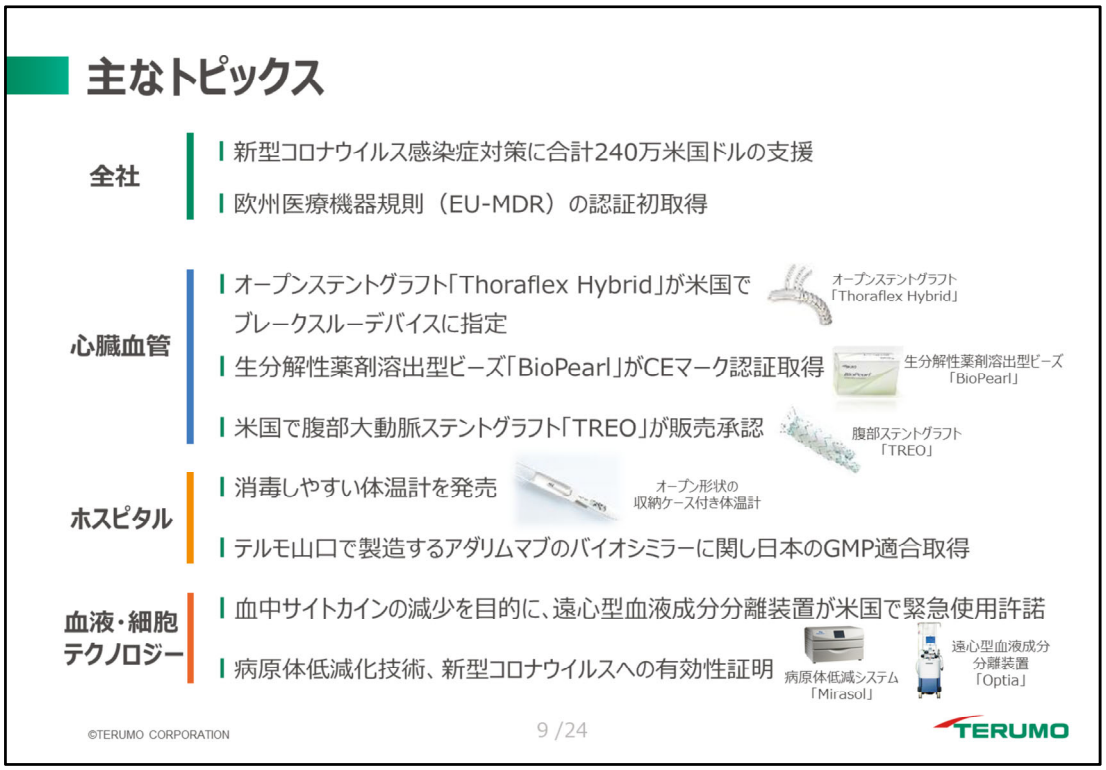
心臓血管カンパニーです。
売上収益は、全事業で新型コロナの影響を受け、為替を除くベースで21%の減収となりました。
TISは、全般的に需要減の影響を受けました。
ニューロは、脳動脈瘤治療の大半が待機症例のため、需要減の影響を大きく受けました。
CVは、需要減の影響はありましたが、日本でのECMOを含む装置の売上増が、減収を一部緩和しました。
血管は、人工血管、ステントグラフトともに需要が下がり、減収となりました。
利益については、売上収益の減少により減益となりました。一方、Q1は需要が下がっていた局面ではありましたが、BCPの観点から、安定供給を目的に在庫の積み上げを行ったため、製造原価にも有利に働き、一部減益の緩和に効いています。



ホスピタルカンパニーです。
売上収益は、医療器や医薬品において、診療制限の影響で一定の需要減がありました。
DM・ヘルスケアでは、新型コロナの予防対策として体温計等のヘルスケア製品の需要が拡大しました。
アライアンスは、海外が牽引し、全体として二桁伸長を維持しています。
利益においては、フィリピンでのロックダウンにより生産稼働低下の影響がみられたものの、費用をコントロールし、前期比で同レベルの収益性を維持しました。



血液・細胞テクノロジーカンパニーです。
売上収益は、血液センター向けの事業において、ドナー不足の懸念がある中、採血効率の高い成分採血への注目度が高く、加えて血液センターが、BCPの観点から一定量の在庫を積み増した様子も伺え、需要増がありました。そうした中、成分採血装置Trimaの新ソフトウェアを導入した事で、効率性の高さをアピールし売上が伸長しました。また、新型コロナの治療に向けた回復期血漿の需要増も一部貢献し、血液センター事業は為替を除くベースで二桁伸長しました。
待機的なアフェレシス治療は延期され、需要減の影響を受けましたが、血液・細胞テクノロジー全体では、売上収益は2%、為替を除くベースで7%の増収となりました。
利益は、収益性の高い成分採血の比率が高まった事により製品ミックスが向上しました。加えて、一般管理費を中心に費用をコントロールした結果、大幅増益となりました。



Q1におけるトピックスです。
全社では、新型コロナ対策への支援として、WHOを支援する基金などへ合計240万米ドルの支援を行いました。
カンパニーは、新製品の認証や発売のトピックスが並んでおり、コロナ禍においても、持続的成長に向けた着実な進捗がみてとれるかと思います。

20年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ
心臓	スティーラブルシース	日	
	PTCAバルーン(Essen社製)	中	
イメージング	IVUSカテーテル	日	済み
オンコロジー	生分解性薬剤溶出型ビーズ	欧	
	末梢血管塞栓用プラグ	米	
脳	血流改変ステント	日米	済み
	バルーン付きガイドカテーテル	欧	
	頸動脈ステント	日	
	袋状塞栓デバイス (Woven EndoBridgeデバイス)	日	
カーディオバスキュラー	次世代人工肺	日	済み
	人工心肺装置(再出荷)	日	済み
	オフポンプ用臓器固定器具	グローバル	日米亜：済み

領域	製品	地域	ローンチ
血管	腹部ステントグラフト	米	
医療器	次期シリンジポンプ	日	
	次期針刺し防止機構付留置針	日	
	Open-TCI用シリンジポンプ	欧亜	欧：済み
医薬品	強オピオイド鎮痛薬	日	済み
DM・ヘルスケア	次期持続血糖測定器	日	
	血糖測定システム	日	
	次期体温計	日	済み

©TERUMO CORPORATION

TERUMO

今年度のパイプライン製品です。
今のところ予定通りにローンチが進んでおりますが、新型コロナの影響による遅延には注視していきます。

20年度業績予想の考え方

- 売上は、Q1で底打ちし下期には回復基調へ。新型コロナ第2波の影響は不透明であるため盛り込んでいない
- 一般管理費は一定の抑制を効かせつつ、早期回復を図るべく業績を見極めながら適切に投下
- 研究開発費は原則として活動レベルを下げることなく投資継続
- Q1にBCP目的で積み上げた在庫はQ2以降、適正水準へ生産稼働レベルを調整

©TERUMO CORPORATION

TERUMO

20年度の業績予想です。先ずは考え方を説明いたします。
売上に関しては、Q1で底を打ち、以降は回復基調と想定しています。新型コロナ第2波の影響は不透明な要素が多いため、本予想には織り込んでおりません。
一般管理費は、一定のコントロールは引き続き効かせていきます。一方、下期より需要が戻ると想定される中、各社競うように回復を伺う局面に入ることが想定されます。競り負けることのないよう、業績を見極めながら適切に費用投下を行ってまいります。
中長期の成長に資する研究開発費は、原則として活動レベルを下げずに投資していきます。
先程も話しましたが、先行き不透明な中、Q1にBCPを目的として在庫の積み上げを行いました。Q2以降、新型コロナの感染拡大の状況、各国の対応の状況、そして当社業績を鑑みながら、徐々に適正水準へ戻していくよう、生産稼働レベルを調整していきます。

20年度業績予想

（億円）

	19年度 実績	20年度 業績予想	増減率 （為替除く増減率）
売上収益	6,289	6,000	-5% (-2%)
営業利益 （率）	1,106 (17.6%)	850 (14.2%)	-23% (-20%)
調整後営業利益 （率）	1,250 (19.9%)	1,030 (17.2%)	-18% (-14%)
当期利益	852	650	-24%

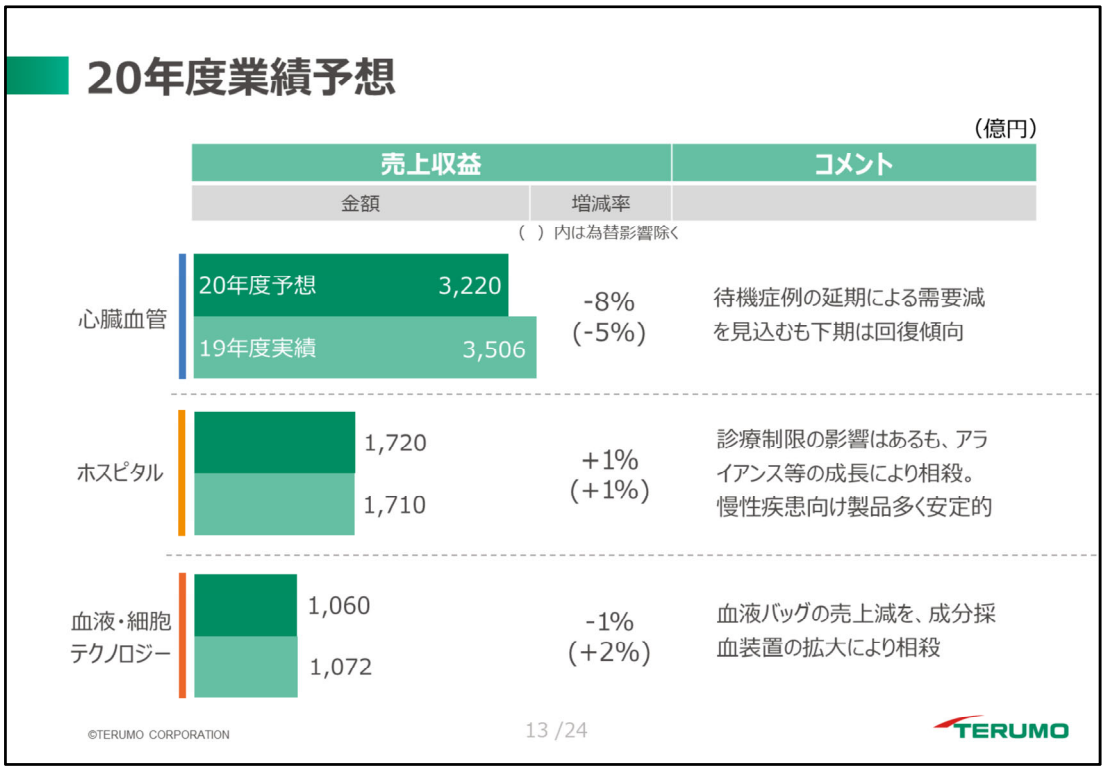
		（実績）	（予想）
為替レート	USD	109円	105円
	EUR	121円	120円

配当に関し、5月決算時に発表した予想から変更なし

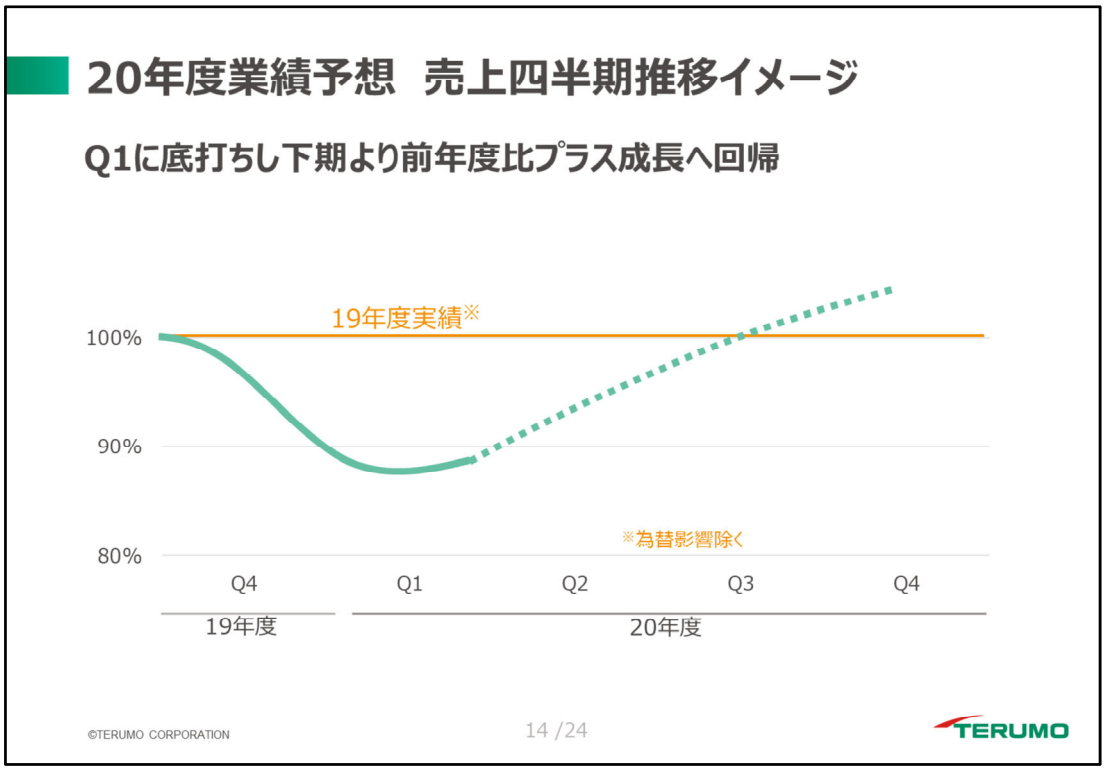
©TERUMO CORPORATION

TERUMO

業績予想です。
売上収益は、Q1の10%台の減収から回復軌道を経て5%の減収、為替の影響を除くベースでは、2%の減収を見込みます。
調整後営業利益は、Q1の30%台の減益から期末で18%の減益まで戻していきたいと思います。
想定為替レートは、ドルは105円、ユーロは現時点より若干円高の120円としています。
配当は、5月の決算時に発表しました予想、中間14円、期末14円から変更ありません。



カンパニー別の売上収益予想です。
心臓血管カンパニーは、Q1に待機症例の延期による需要減がありましたが、下期は回復軌道を描き、通年で8%減、為替を除くベースで5%の減収を見込みます。
ホスピタルカンパニーは、コロナ禍における診療制限は一定レベル続き、医療器や医薬品へのマイナス影響があると考えています。一方、アライアンスなどが引き続き牽引することで相殺され、1%の増収を予想しています。
血液・細胞テクノロジーカンパニーは、血液バッグの減少が想定されますが、成分採血の強いモメンタムが相殺し、為替を除くベースで2%増を予想しています。



昨年度の実績をベースとした、売上の四半期推移のイメージを説明します。
Q1は10数%の減収となりました。しかし、最も影響を受けた心臓血管カンパニーの月別の売上をみますと、4月は3割半ばの減収でしたが、6月は1割を切る減収までに回復しました。
Q2以降は回復基調を描き、Q3は概ね前年並みに、Q4はプラス伸長と、成長軌道線に戻っていくと予想しています。
今年度は、新型コロナ第２波の影響など不透明さはぬぐえませんが、感染拡大や治療への貢献を積極的に行い、ニューノーマルへの適応を図りつつ、着実に成長軌道への回復を目指してまいります。

参考資料

©TERUMO CORPORATION

事業別・地域別売上収益と伸長率

（億円）

事業セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	109 (-10%)	564 (-23%)	167 (-21%)	244 (-25%)	80 (-28%)	73 (-14%)	673 (-21%)
うちカテーテル※	78 (-15%)	462 (-24%)	136 (-22%)	192 (-26%)	74 (-30%)	60 (-15%)	540 (-23%)
ホスピタル	308 (-1%)	84 (+3%)	23 (+10%)	21 (+20%)	4 (-19%)	35 (-6%)	392 (-0%)
血液・細胞テクノロジー	25 (-0%)	222 (+8%)	64 (+17%)	98 (-0%)	17 (+38%)	43 (+7%)	247 (+7%)
合計	443 (-4%)	870 (-15%)	255 (-12%)	363 (-18%)	102 (-21%)	151 (-7%)	1,313 (-11%)

※TIS事業とニューロバスキュラー事業の合計
（ ）内は為替影響除く前年比伸長率

©TERUMO CORPORATION

TERUMO

販管費

（億円）

	19年度Q1	20年度Q1	増減	増減率	為替除く増減率
人件費	219	224	+5	+2%	+5%
販促費	49	20	-28	-58%	-57%
物流費	35	33	-2	-5%	-2%
償却費	45	46	+1	+1%	+4%
その他	97	78	-20	-20%	-19%
一般管理費計	445 (29.2%)	401 (30.5%)	-44	-10%	-8%
研究開発費	118 (7.8%)	112 (8.5%)	-7	-6%	-4%
販管費合計	564 (37.0%)	513 (39.0%)	-51	-9%	-7%

©TERUMO CORPORATION

TERUMO

四半期の動き

（億円）

	19年度Q1（4-6月）	Q2（7-9月）	Q3（10-12月）	Q4（1-3月）	20年度Q1（4-6月）
売上収益	1,525	1,548	1,629	1,588	1,313
売上総利益	852 (55.8%)	863 (55.8%)	872 (53.5%)	853 (53.7%)	689 (52.5%)
一般管理費	445 (29.2%)	451 (29.1%)	472 (29.0%)	477 (30.1%)	401 (30.5%)
研究開発費	118 (7.8%)	125 (8.1%)	127 (7.8%)	136 (8.6%)	112 (8.5%)
その他収益費用	4	13	-2	4	5
営業利益	292 (19.1%)	300 (19.4%)	271 (16.6%)	244 (15.3%)	181 (13.8%)
調整後営業利益	339 (22.3%)	331 (21.4%)	314 (19.3%)	266 (16.7%)	217 (16.5%)

四半期平均レート					
USD	110円	107円	109円	109円	108円
EUR	123円	119円	120円	120円	119円

©TERUMO CORPORATION

TERUMO

調整後営業利益: 調整額

（億円）

	19年度Q1	20年度Q1
営業利益	292	181
調整① 買収無形資産の償却費	+40	+35
調整② 一時的な損益	+8	(※) +1
調整後営業利益	339	217

※ 調整項目

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

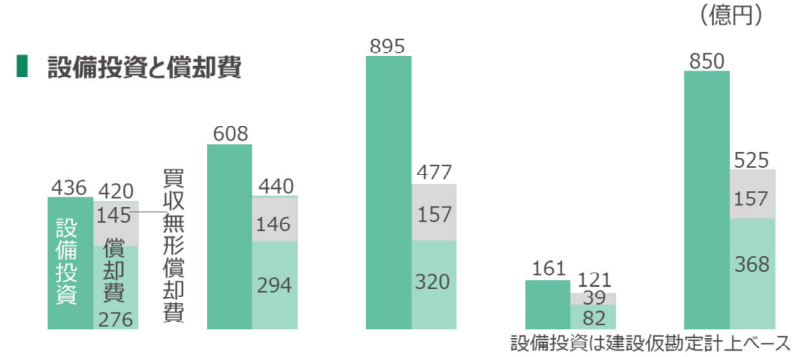
(※)20年度Q1 調整②「一時的な損益」の主な項目	調整額
事業再編コスト	+2
その他	-1

©TERUMO CORPORATION

TERUMO

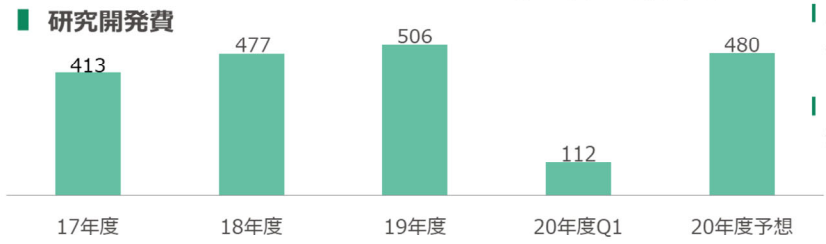
設備投資、償却費、研究開発費

設備投資と償却費



- 19年度・20年度実績・予想にはリース償却（IFRS16)含まず
- 20年度は、増産設備、生産スペース、R&D投資、IT投資を拡大

研究開発費



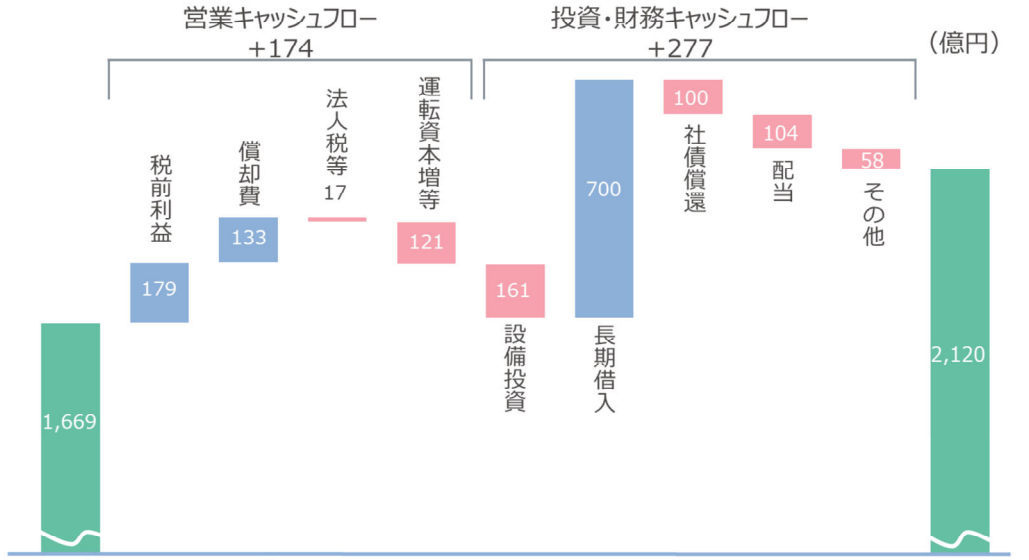
- 主にカテーテル、ニューロ、血液・細胞テクノロジーの開発活動を促進
- 開発費の資産化は設備投資に含む

18年度　：24億円
19年度　：48億円
20年度Q1：13億円
20年度予想：54億円

©TERUMO CORPORATION

TERUMO

キャッシュフロー



設備投資は建仮計上ベース
期末現預金残高はB/Sの「現金及び現金同等物」と整合

©TERUMO CORPORATION

TERUMO

為替感応度

１円の円安に対しての年間影響額

（億円）

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	24
調整後営業利益	0	5	13

＜参考＞ 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	20	36

©TERUMO CORPORATION

TERUMO

転換社債の状況

社債明細（2014年12月起債）

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額（億円）	金利	転換価格（円）	転換制限価格（円）	転換の場合必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,912	2,486	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,912	2,486	約26百万株
計	1,000				約52百万株

転換状況（2020年7月31日時点）

対象社債	転換行使額（対象社債総額比）	交付株数（発行済株式総数比）
2019年12月満期	500億円（100.0%）	26百万株（3.4%）
2021年12月満期	462億円　（92.4%）	24百万株（3.2%）
合計	962億円　（96.2%）	50百万株（6.6%）

- 転換行使による株式交付は自己株式を充当
  - 自己株式の状況： 5百万株(2020年7月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比0.7%)

©TERUMO CORPORATION

TERUMO

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。

©TERUMO CORPORATION

TERUMO